編集後記

◆ 本号も，前半は，環境を記録する化学物質及び同位体の特集からなります．前号にも書きましたが，編者は，その内容を必ずしもよく理解はできませんでした．しかしながら，その中の1編には，その研究が，「地球環境の影響評価のための不可欠な情報を提供し，現在の地球の理解と将来予測という，地球科学が社会から最も期待される部分を含んでいる」と記されています．大変心強い決意表明です．ほかの地球科学研究者もかくあるべしと思わせるものがあります．そう言った後ではなんですが，もう少し易しい文章を書く機会がありましたら，ぜひどうぞ．

◆ 表紙，口絵には，中朝国境にまたがる火山，長白山・白頭山の写真が紹介されました．

ある著名な登山家によれば，冬季の登頂は大変であったそうですが，穏やかな季節には大勢の観光客，登山者，登拝者が訪れるそうです．この火山は今から千年ちょっと前に，大規模な噴火を起こし，その火山灰が日本にまで達したことで有名です．東北から北海道にかけての地域で数cmの灰が降り積もりました．堆積直後の厚さがその約2倍だとすると，もし現在の日本にそれがもたらされれば，大変な災害が発生することになります．近年になって，日本の研究者による火山直近の火山灰の調査も行われるようになりました．

◆ 中国の温泉の話は，地熱関係者はよく聞くところですが，そうでない方には珍しいかもしれません．著者は，日本の温泉の紹介が旅館の紹介に偏っていると指摘されていますが，編者が目にする日本の温泉の紹介は全く異なり，温泉の泉質や由来，周囲の状況などが主に記されています．御互いに読んでいる本が違うようです．さて，続きはどうなるのでしょうか．

◆ 世界の地質図のデータベースについては，地質図の数値化・標準化に関する最近の国際動向の紹介記事が別に投稿される予定です．地質図を作成する人，そのデータベースを作る人，それを利用する人，その仲介をする人，様々な立場からこの大事業について議論することは大変意義のあることだと思います．

◆ 久々に紹介された地質の写真シリーズは，編者が行ったことも名前を聞いたこともない山の中の小さな池のお話です．ほら，こんなところに行くとこんなものがみられるのですよ，有名な観光地だけでなく，こんなところにも行ってごらんなさいよ，と語りかけるような著者の姿勢には好感が持てます．きっと著者はこの池が大好きなのです．

◆ 化石のレプリカ作成に関しては，立体のものに鮮やかに印刷・着色する方法なども，ほかから提案されているようです．誰ですかこれでひと儲けできるだろうかなどと考えているのは．でも，地球科学の普及活動の一環として，自分で作る楽しみを味わってもらうだけでなく，たくさん作って普及させるというのもひとつの考え方かもしれません．今後の発展を期待します．

（須藤　茂）

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤　茂
副委員長：谷田部信郎
委　員：高木哲一・関口春子・中島　隆・安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター　地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1−1−1
Tel. 029−861−3754
Fax. 029−861−3569

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ

地質ニュース　第586号　2003年　6月号
定価￥785 (本体価格￥748)　〒実費
2003年6月1日　発行
編集　産業技術総合研究所
発行人　株式会社　実業公報社
代表者　林　光生
発行所　株式会社　実業公報社
東京都千代田区九段北1の7の8　〒102-0073
Tel.(03)3265−0951　Fax.(03)3265−0952
E-mail: j-k@jitsugyo-koho.co.jp
振替口座　00110−6−32466
麹町局私書箱第21号
印刷　株式会社　エアフォルク

© 2003 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります．また，最寄りの書店でも注文できます．